

# ここで見られる! 東区の山車

## 筒井町天王祭 / 出来町天王祭

牛頭天王を祀り無病息災を願う天王祭は、町内の人々が執り行なっている。

■筒井町天王祭  
金曜(宵祭)・6月第1土曜・日曜  
名古屋市中区筒井町

■出来町天王祭  
6月第1土曜・日曜  
名古屋市中区新出来・出来町・古出来

## 徳川園山車揃え

徳川園に山車が集結し、からくりを披露。

■天王祭の最終日 午前11時～12時  
名古屋市中区徳川園(徳川美術館前広場)

## 名古屋まつり 山車揃

市内に現存する山車9輛が市役所を出発しパレード。

■10月中旬頃の日曜日

## なごやかまつりひがし 山車揃え

東区の山車が尾張徳川家ゆかりの建中寺前で勢揃いする様は、壮観。

■10月中旬頃の日曜日  
名古屋市中区建中寺前



**大暮はなぜ赤いのか**  
山車の大暮に用いられる赤い幕は、緋(緋)と書きます。緋は、江戸時代に南蛮から輸入された毛織物で、狸(狸)や想像上の動物の血で染められていたと伝えられています。7代徳川幕府の時代に、東照宮祭の山車に初めて採用され、尾張の山車に狸(狸)が急激に広がるのは、齊朝公より1835(天保6)年に若宮祭祭礼車の福祿寿車が拝領してからといわれています。

筒井町の神皇車と湯取車、古出来町の王義之車では、祭りの前に代参者が津島神社からお札を受け取る。



**ここが自慢! 東区の山車祭り**

戦前の名古屋三大祭りでは、お囃子はなんでも、横取りは出入りの職人、曳くのは緑のあること(七間町は志賀村などに頼むのが普通でした。山車は「曳くもの」ではなく、「曳かせるもの」だったのです。

筒井町でも、以前は横取りが、番永田組(※)などの横方組に依頼してました。

1702年の名古屋城修繕工事にかかわった職人が住み着いた出来町を見せ場や「立ち切り」と呼ばれる、前輪を持ち上げる方向転換も、力自慢がそろっていた東区の山車ならではの特徴です。

※番永田組は、名古屋で唯一現存する山車横方組(横方の口組)。戦前は東宮祭の中市御前、石橋車や若宮祭の前町、天王祭の横方務め。現在も四目車組の横方務めといふのが、横方務めらしい。

また「力持ち」と呼ばれる、横方のうちの一人が単独で山車を持ち上げる見せ場や「立ち切り」と呼ばれる、前輪を持ち上げる方向転換も、力自慢がそろっていた東区の山車ならではの特徴です。

戦災や伊勢湾台風などの災害により、何年も曳行が途絶えた後に祭りを再開することができたのも、人頼みでなく、町内で祭りのすべてを執り行ってきたからにはなかりました。

曲げ場：ここでは横方(かじかた)と呼ばれる若衆が横棒を担ぎ、約三貫の山車を持ち上げ方向転換を、約三貫の山車と大きな役割をするのが「腰廻り」。この棒を操り、後輪が流れるのをふせぐなど、車輪の位置の調整をします。町内の細い道まで進むので「1日に70回余も曲げ場があるとき」。

力持ち：横方の力の見せどころ。町内の世話役の家や店の前で、独りで横棒を担ぎ上げて、山車の輪を浮かせてみせます。ついでに輪が地面から離れると、その家の人から祝儀がいただける。横方の育成に力を入れている西之切では「力持ち」を日に10回以上も行います。

「ハギン・モモジの梯子柄は、弁慶様を呼ばれる。」

「マいて棒を持つ人も、山車に柱に、尻に柱に、お札」

「力帯(ちからおび)」

「すね紐」

「扇子も必須アイテム」

「力帯やすね紐は、ハードに着く横方たちの体を支える重要なもの。」

「地面を踏みしめる足元はワラジ。」

# 筒井町・出来町天王祭



曳行 祭りの期間中、延べ20時間余り山車は曳きまわされる。



からくりの奉納 早変わり、倒立、獅子舞など、華麗な技に魅せられる。



**生涯精選**  
西之切元老 落合健次さん

「稽古は古から学ぶもの。途轍もなかった師匠やさらにその師匠が途轍もなかったと話していた師匠を目指し、生涯精選し続けたい。」

西之切の元老を務める落合健次さんは東区の山車祭りを牽引し、また二番組三代目頭として名古屋の数多くの山車祭りに携わってきた第一人者です。

落合さんが東区の山車祭りの伝統を守るために後継者育成の道筋を示し、東区五輛での取り組みが始まりました。毎年天王祭の期間中に行われる「徳川園山車揃え」が平成17年に始まり、平成20年に「心幹」を制作、平成25年にはNPO法人東区山車まつり振興会が設立され、「子ども山車まつり教室」や「山車囃子・からくり競演」が開催されるようになりました。

落合さんは名古屋開府三百年祭(1910年)や東照宮祭に携わった方々から直接当時の話を耳にしており、当時の人々のお祭りへの取り組みやその心意気を祭り当日はもちろんなこと、稽古を通じて私たちに伝えてくれています。

私たちは落合さんに示してもらっている古からの学びやお祭りに対する姿勢を大切に、映像では伝わらない心意気を次世代に継承していきたいと思っています。

囃子の稽古をつける落合元老 やる気のある者には本気で向き合い、ともに精選する姿勢を貫きます。

**どんな世の中になっても 伝えていきたい**

以前は、祭りに参加できるのは、祭り町内の男子と限られていました。しかし近年では、後継者育成を第一に考え、囃子方の子どもたちを学区を問わずに募集する、女子も参加できるようにする、横方を他所の若者にも務めてもらう、という保存(奉養)会が増えました。

囃子の稽古は、天王祭、名古屋まつり、1ヶ月〜2週間前から毎晩、会館や町内の家に集合して行われます。その他、山車の組み方、横方、人形の操作などの技を伝承して、くは容易なことではありませんが、10年に1回の山車の「組み直し」をしている中、之切の取り組むは、各会が工夫して、江戸期から続いてきた祭りを継承しようとしています。

**貴重な山車を譲り受ける**

山車台を製作するには、様々な人の手をくくり、それらのお金もかかります。そこで町内で新しい山車を造った際に古いものをどこかほかの町に譲るといふことも、しばしば行われていました。西之切と中之切は、時代は違っても、の偶然同じ住吉町から譲ってもらっているため、間口と曳行きの寸法がほとんど同じです。

**誰がいなくても 祭りは成り立たない**

山車の製作には様々な職種の人がかかわっています。本体を造る大工、細工する指物、輪を作る車屋、からくり人形師、漆屋、銚子、金具屋、幕屋、絵師、刺繍屋など。いわば、工芸の名品の集大成のようなもの。その壮大な山車がじりじりと動き、囃子や人形の舞いが加わって「一大スベクタクルをくりひろげます。」

祭りで山車を曳行するには、チームワークが必要です。長年の経験を持つ年配の人たち、力強い若者たち、囃子方を奏する子どもたち、おもてなしなど、横方を支える女性たち。誰がいなくても祭り成立しません。

見る人も、かつぐ人も、支える人も、皆がわくわくした空気を共有し、楽しむ。祭りの独特な雰囲気は、たくさんの方の祭りや山車にかける思いが、かもし出すものなのかもしれません。

**屋根が上下するのは 名古屋型の山車ならでは**

祭りの見どころ、人形からくりを披露する際に、すると屋根がせり上がるのを見たことのないでしょうか。名古屋の山車は屋根が上下するように造られています。元祖名古屋祭である、東照宮祭で名古屋の門をくぐって城内に入ることから、このようなつくりになったといわれています。また、輪掛と呼ばれる格子状の車輪の覆いがついているのも、特徴のひとつ。犬山、半田などの山車にはありません。

**からくり人形が演じるのは?**

華麗な舞いや技を披露するからくり人形。演じているのは、能楽から題材をとったものが多くあります。尾張徳川家初代藩主の義直は能・狂言を庇護するなど芸能にも造詣が深かったところから、能楽の中でもおもしろいものを選択して山車にのせられたとされています。糸の操りも舞の本手できる限り取り入れ、人形師が工夫を工夫をこらして製作したものがばりです。

仕掛けに使われている線のはげは湿度によってバネの効き方も違ってきます。東区の山車では天王祭の時期、雨の少し前くらいに「番スミズ」に動くよう調整がされています。人形は太鼓の真ん中をたたくと、微妙な加減で動きが変わるので、人形方の技が試みるところです。

**誰がいなくても 祭りは成り立たない**

山車の製作には様々な職種の人がかかわっています。本体を造る大工、細工する指物、輪を作る車屋、からくり人形師、漆屋、銚子、金具屋、幕屋、絵師、刺繍屋など。いわば、工芸の名品の集大成のようなもの。その壮大な山車がじりじりと動き、囃子や人形の舞いが加わって「一大スベクタクルをくりひろげます。」

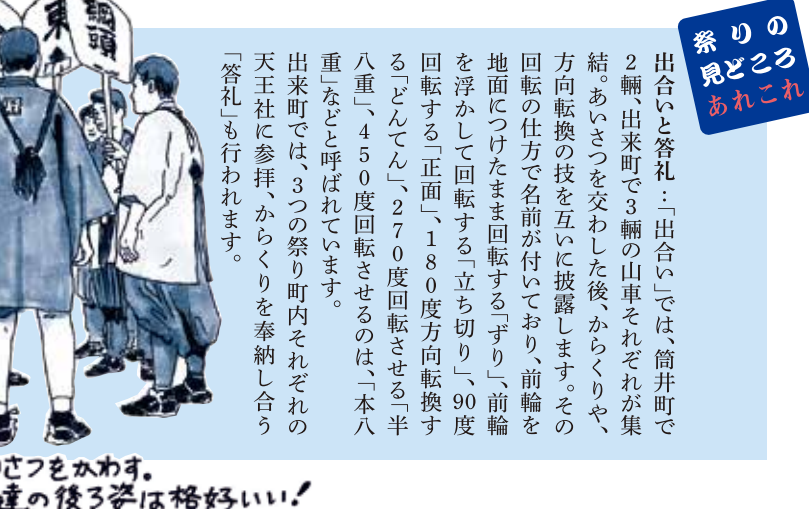
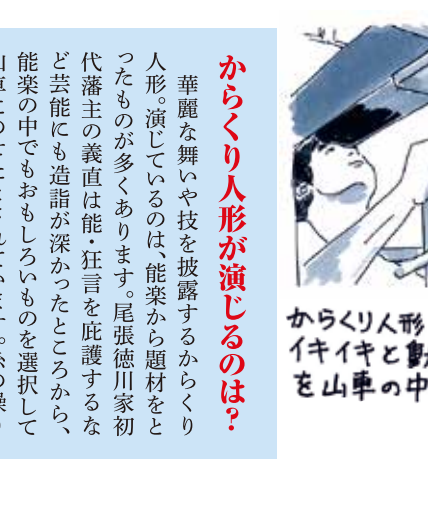
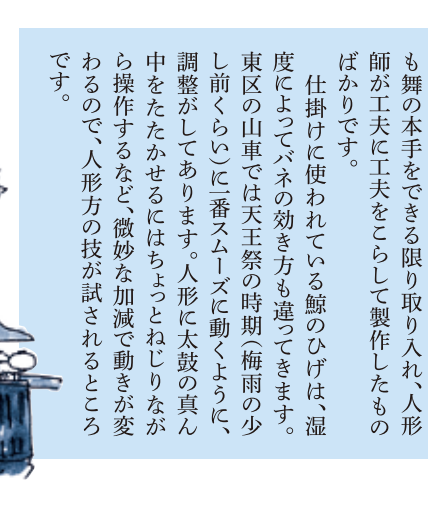
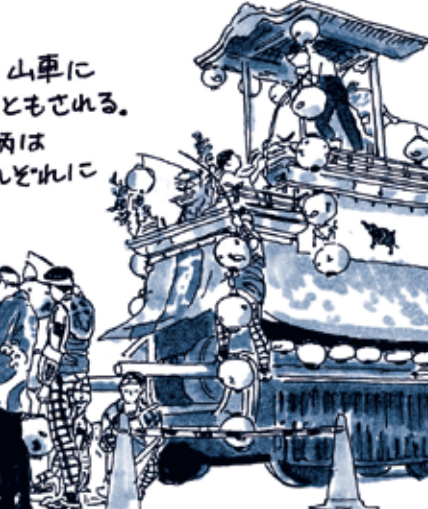
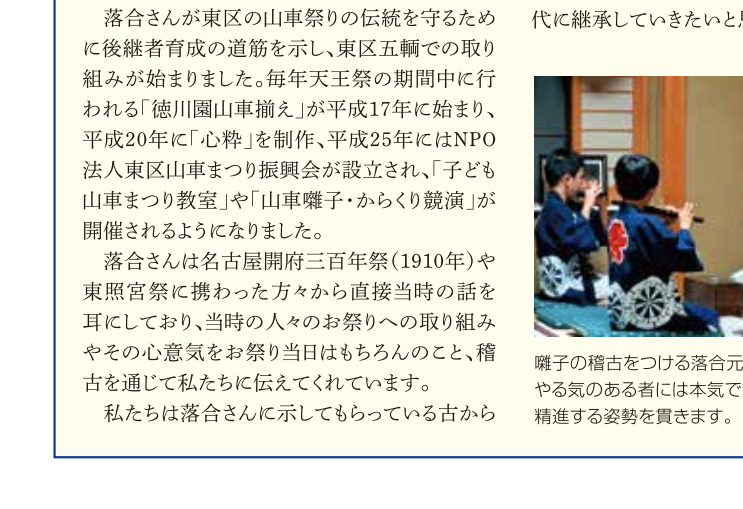
祭りで山車を曳行するには、チームワークが必要です。長年の経験を持つ年配の人たち、力強い若者たち、囃子方を奏する子どもたち、おもてなしなど、横方を支える女性たち。誰がいなくても祭り成立しません。

見る人も、かつぐ人も、支える人も、皆がわくわくした空気を共有し、楽しむ。祭りの独特な雰囲気は、たくさんの方の祭りや山車にかける思いが、かもし出すものなのかもしれません。

**出合いと誓い、出合い**

出合いと誓い、出合い。筒井町で2輪、出来町で3輪の山車それぞれが集結、あいさつを交わした後、からくりや方向転換の技を互いに披露します。その回転の仕方、名前が付いており、前輪を浮かして回転する「立ち切り」、90度回転する「正面」、180度方向転換する「どんでん」、270度方向転換する「八重」、450度回転させるのは「一本八重」と呼ばれています。

出来町では、3つの祭り町内それぞれ、天王祭に参拝、からくりを奉納し合う「答礼」も行われます。



「出合い」であいさつをかわす。祭りになる男達の後ろ姿は格好いい!